

第二のルネッサンスとしての仮説実験授業

上田仮説サークル資料

2023年1月28日

渡辺規夫

はじめに

10月8日の仮説実験授業大衆化への道研究会で宮地さんが講演しました。その講演を聞いて触発されて思わず書いた文章です。妄想かも知れませんが、これを読むときは眉につばをつけて読んでください。

ルネッサンスとは何か

ルネッサンスは自由にやろうという運動です。人びとは中世的世界観の中で、キリスト教の束縛の中で生きていました。そんなとき、ドイツの修道院である本が発見されました。ルクレティウスの『ものの本質について』という本です。この本には古代ギリシャの原子論的自然観が書かれていました。読んだ人は驚きました。これまで考えたこともない、世界はすべて原子でできているという考えを知ると、この考えをもとにいろいろ考え始めました。

「昔、われわれの知らないところですぐれた文明があったのだ。それを学ぼう。それを真似しよう」という運動が起こりました。それまで人びとは神の罰を恐れて生きていました。原子論的自然観に立つと、神の罰を恐れる必要はなくなりました。「われわれ人間は自分の考えで自由に生きて行っていいんだ」ということになります。この考え、人間中心主義をヒューマニズムと言いました。この運動は現在まで続いています。まだ多くの人のものになっていません。

人間中心主義へ道を進もうとして失敗した例

現代の社会の束縛を嫌った人たちはいろいろなことをしました。

①非行少年たち

束縛を嫌い、束縛を破ることで自由になろうとして世の中で非行とされていることをする人たちがいました。非行少年たちです。非行により自由になれたのでしょうか。やってみると、補導されたり、逮捕されたり、世間から非難されたりして、ますます

自由がなくなりました。

②暴力団

世間の束縛を嫌って暴力団に入る人たちもいました。暴力団に入ると世間の束縛から逃れられると思ったのです。自由になれたのでしょうか。自由は得られませんでした。世間の束縛より暴力団の束縛の方が大きかったのです。さらに警察に逮捕されたりしてますます不自由になりました。

③反体制運動

反体制運動をやる人たちもいました。反体制運動家は、今の社会にどう適応するかを無視して、自分の考えで行動しています。自由になれたのでしょうか。反体制運動家も次第に、運動が負担になってきました。自由を求めて運動しましたが、実際には不自由な毎日が待っていました。反体制運動も自由を獲得するには役立たなかったのです。

④公害反対運動

公害反対運動に力を入れる人たちもいました。これは反体制運動に行き詰った人たちが、飛びついたテーマでした。公害反対闘争はその後環境保護運動と形を変えていきました。運動の中で自由を獲得できたと感じた人たちもその影響力は限定的でした。このような失敗はほかにもたくさんあると思います。

いまだにルネッサンスは実現していない

誰もが自分の自由にものごとをやりたいという気持ちを持っています。しかし、自由を求めても自由にならなかったという人の方が多いのです。どうすれば自由になれるかがわからないのです。

そのため、多く人は今の社会に適応しようとして生きています。これは中世では社会にどう適応するかという生き方しかしていなかった時代と同じです。その意味で今もまだルネッサンスは訪れていません。

ある人たちは退職後に期待しています。退職したらあれもやりたい、これもやりたいと思っていた人が、退職して自由になってみたら、自分が何をやりたいのかがわからなくなったという人が少なくありません。

今の世の中を生きづらいと感じて不登校になったり、引きこもりになったりしている人たちの数は増えるばかりです。ルネッサンスを熱望しているのにルネッサンスが来ないのです。

自由に生きている人たち

一部の芸術家やアスリートは自由に生きています。それが人びとを引き付けるのでしょう。自由に生きるという生き方があると希望を持たせてくれるのです。しかし、それらを賛美する人も自分は自由に生きることができずにいます。自由でない苦しい仕事をして、その余暇に芸術やスポーツを楽しんでいます。

自由に生きるための仮説実験授業

しかし、この現代に驚くべき自由を謳歌している人たちがいます。それは仮説実験授業をする人や仮説実験授業を受ける人、その研究を進めている人たちです。

仮説実験授業をやる人の多くは職業としての教員をやっています。教員というのは束縛が多い職業なのではないのでしょうか。そのとおり、教員は束縛でがんじがらめになっています。自由に生きる余地はほとんどないのです。ないはずなのですが、勝手に仮説実験授業をしています。しかもその授業は生徒に大歓迎されているので、管理職も取り締まることができません。さらに、社会教育として親子孫講座などの仮説実験授業をしている人たちもいます。

ルネッサンスの精神で生きている人たちが実際にいるのです。自由に生きる道があることが示されているのです。この人たちの授業を受ける子どもたちは授業を楽しんでいます。この人たちが主催する講座には人が集まって科学を学ぶことを楽しんでいます。

第二のルネッサンスとしての仮説実験授業

仮説実験授業は授業の方法ではなく、古代の原子論に立ち返ろうとしたルネッサンスの精神を受け継ぐものです。ルネッサンスの精神が大衆レベルで実現できるようになりつつあるのです。私たちはすごい時代に生きているのです。

古代の原子論の復活がルネッサンスでした。仮説実験授業はこの古代の原子論を現在に復活させる授業です。つまり、仮説実験授業は第二のルネッサンスなのです。この幸福がみんなのものになりつつあるのです。この仮説実験授業とその研究者たちが成し遂げた成果と組織論をよく学ぶことが必要だと思います。

【追記】

音楽史では、中世の教会音楽とバロック音楽には含まれたルネッサンスの音楽は低く評価されている。音楽史も書き換えなければならないかも知れません。